

サイレント映画 「日曜日の人々」ピアノ伴奏上映

サイレント映画ピアニスト 柳下 美恵

(文・谷口亜沙子)



フォーラム第一目の締めくくりは、エドガー・G・ウルマー監督によるサイレント映画『日曜日の人々』のピアノ伴奏つき上映であった。伴奏者の柳下美恵氏は、日本人サイレント映画ピアニストのパイオニアであり、映画誕生百周年の一九九五年にデビューして以来、日本におけるサイレント映画の受容史を刷新してきた。

一九二九年の夏に撮影された『日曜日の人々』は、その年の十月に起こる世界大恐慌の直前のベルリンを舞台としている。やがて到来するナチの悪夢、第二次世界大戦、ベルリン空襲などはまだ影も見せない穏やかな日常。当時のサイレント映画としては破格なほど自然な演技をみせる俳優たち。他愛ない男女五人の物語が主軸になっているが、柳下氏が上映後に語ったとおり「出てくるすべての人が主人公だと感じられる映画」である。ドキュメンタリーのように映しだされてゆくそれぞれの日曜日。そこに柳下氏のピアノが寄

り添うと、画面がいつそう生き生きとあざやかに息づく。「耳」で音を聴くことによって、「目」はこれほどまでに変化するのか。無声のはずの画面から、笑い声や会話が聞こえ、光と影のきめは限りなく繊細になる。ストーリーはよりくつきりと浮かび上がり、我々とスクリーンとの距離が消える。かつて生きていた人々はたしかにそこに生きていたのだ、という単純な真実が肌に迫るように感じられる七十五分。サイレント映画ならではの中間字幕による圧倒的なラストショットののち、会場からは長い拍手が続いた。

上映後のトークでは、プロの俳優を使わない点、劇的な要素を排し、ありふれた日常を撮るこの作品の現代性や、「映画が楽譜」とも言われる柳下氏特有の即興の演奏法についての質問が続いた。また、サイレント映画が初めてだった参加者からも「ピアノ演奏がとても自然で、すっと入り込んで見られた」「白黒の映画のはずが、色がついた映像のように思えました」などの感想が届けられた。

サイレント映画ピアニスト。武蔵野音楽大学ピアノ専攻卒業。一九九五年に朝日新聞社主催の映画生誕一〇〇年記念「光の誕生リユニエール！」でデビュー以来、国内海外で活躍。欧米式のサイレント映画伴奏者は日本人初。洋画、邦画を問わず全ジャンル、伴奏のほか、尾道、川崎、豊岡、タイなど映画館での音楽ワークショップも行う。二〇〇六年度日本映画ペンクラブ奨励賞受賞。